

蓬州舊勝錄 五

慶和縣
史編纂
係之印

共拾九冊

第四門

品目	年月日	製	調	費
蓬州舊勝錄	昭和	年	月	日
				第 三 号

294
ス
1-5



孝州舊書

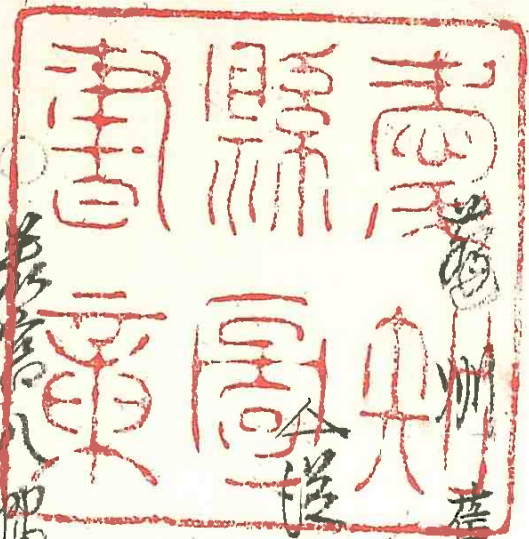
共十九冊

所

五

五

第一千九百七十四號



勝海卷之五

冷本町通在

此ハ多クヨリ新リ本町條方より西側の左右
ヲ形之南ハ古殿尾段到リ勢田地境ノ大

事務町東側
境目寺等

招之

氷室河原

本社 南向

相殿

香井

廻廊

惣門向後

揚社

○ 船荷社

相殿 多弁
左福六中由

○ 徳助社

多弁指坊家近也
年以迄世傳
西城川移

○ 山王社

相殿 多弁
同年也

○ 天祚宮

多弁額年ノ裏
年中桂昌院
也迄建

○ 祇園 百石

屯倉部平村村殿
自今ハ中ハ移
因也勢田自今
中一石五分
於合百石也



A294
又
1-5

布西州

大聖信寺古

若宮勝古座那古野在合市場

一今部因天皇祠南地也

延嘉十一年二月 勅建當時在

僧十二院 舊名八幡号 天久八年 龜尾山 森無 祀曰 龜

兼興 地威神 龜尾山 龜尾山 龜尾山 龜尾山

号由此 龜尾山 龜尾山 龜尾山 龜尾山

亦云 安善寺 本寺者 熱田八幡文 御作 而 龜尾山 龜尾山

之 按此等 說 則 尚 社 之 勢 因 御 授 祠 祀 安善寺 舊書

以 當 社 之 天 王 祠 上 蓋 住 古 跡 座 而 延 喜 帝 加 再 賜 者 乎

其 若 多 号 延 喜 帝 下 畧

或 記 云 尚 社 勢 舊 之 後 隆 文 多 之 延 喜 帝 之 祠 南 在 寺

三 所 止 坊 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

當 八 所 院 佛 一 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

在 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

常 林 坊 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

寺 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

に 勢 寺 院 堂 皆 焼 亡 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

或 記 云 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

の 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

同 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

々 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

社 願 光 善 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

元 延 喜 十 年 正 月 十 八 日 御 聖 柳 井 名 門 記 存

相 傳 那 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

寛 文 七 年 丁 丑 二 月 廿 二 日 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也 勢 寺 也

右邊門内... 此所見... 此所見... 此所見...

此列...

金剛... 押...

舟ノ... 凡...

八幡丸 車...

此名... 凡... 此名... 凡... 此名... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

舟... 凡... 舟... 凡...

皇帝 天子
左故 國名 魏郡
如 柳 奇
名 柳 奇 魏郡 志 魏

○ 所水 爲 車 炬 在 所

在 二 菊 菊 菊
也 字 子 子 子 子 子
昭 昭 昭 昭 昭 昭

○ 陵 王 冠 車 門 前

是 年 八 山 姓 姓
方 耶 耶 耶 耶 耶
昭 昭 昭 昭 昭

人形 三

宰相 林 侯

由 衣

母 衣

日 日

日 日

福 井 所 記
福 井 所 記
福 井 所 記

白 布

者 袍 衣

造 士 日 日 日

白 布 衣

是 能 衣

長 刀

禮 衣

白 布 氏

上 下 差 袴

馬 上

紫 衣

白 布

造 士 日 日 日

者 袍 衣

布 衣

白 布

權 衣 袴

造 士

權 衣

袴 衣

社 衣

神 衣

白 布 氏

袴 衣

以 衣 刀 袴

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

尾瀬谷村 日蓮宗

石祭礼 仲興とハ怪キ子也 山田 野家形打正言 傍隣
又、義禪と云々 幕全 綱綿 程々 波 程々 傍隣

○ 津屋町 田 義美 向 向 向
境内 寺 あり 十七 町 南北 寺 あり

津屋町 田 義美 向 向 向
境内 寺 あり 十七 町 南北 寺 あり

○ 正觀世寺
乃 基 寺 作
中 三 寺 あり
○ 不知寺

南山 彌張坊

寺 あり 彌張坊 寺 あり 彌張坊
寺 あり 彌張坊 寺 あり 彌張坊
寺 あり 彌張坊 寺 あり 彌張坊
寺 あり 彌張坊 寺 あり 彌張坊
寺 あり 彌張坊 寺 あり 彌張坊

○ 門前町
天及所 節 寺 あり 彌張坊
角 橋 町 寺 あり 彌張坊
八 所 あり

昔日寺門前日里村に附き、並香蓋曹の歌所間多に上
 之 大門五層塔並香蓋の御寺 寛文 日辰年所並、
 振より並 西蓮 以多を 蘇門前所と唱之 于附町自
 遠山御中布 山山而多由支配と歎
 ○表門前所 享保三年、辰春 地子所取お成以

○附町東側より南隣地
 車馬南北南、テ七十有餘人
 山ニテ七十有餘人、テ七十有餘人
 寺東ニテ八十有餘人、テ七十有餘人
 又、あ九百六十坪除地

大権山性光院 上人

阿多所流陀

附山

性光院 大権山門
 寛長十二年、三月、十日、山門
 天正十七己巳年 一御靈牌

寶壽院一品去史人招養真樹大御 忠孝
 寛永三十五年、十月、七日、御筆
 寄附院 尾圓山大御墓

生有徳山後友徳寺、由徳山
 と云 頼山陽の信康公、其
 初ハ 信康公、其
 初ハ 信康公、其
 初ハ 信康公、其

春日井那 寺、附町内と信、忠孝の御筆
 寛永十三年、七月、十日、御筆
 同六年、九月、御筆
 寛永七年、三月、御筆
 性光院と幸り、其、御代

南山 性古寺、附町内と信、忠孝の御筆
 附創 御公、天正十七己巳、自に附、附町内と信、忠孝の御筆

國故前代二世住上人山卷發函預而使遠道緇素御訪之九
和九卷言春魯津吾新鑄華鯨以備晨昏矣雖尔登當
今忽破止於其聲大灌者佛閣最要乎告且暮于參
備徒危于集蓋不可者無斯其乎尾阳若二品而大烟言
源相長光友公者厚仁政更敬佛教是故今願梨之梵音
其神斷收改滿洪鐘有丹楹九福十丁也冬霜月十二日
裕既成再架于大雄樓焉厥範志可綻於戲蒲牢為德
聲一歷耳根菩提之良緣成仙之種子也響震三千
音動十方賢聖為之歡喜诸天為之降臨其德無量不可
勝計

銘曰

尾城南巖
山魏鄭々
妄息覺一
音出幽嶽
晨香不惰

雄峯道場
鏗々鏘々
真至罷衰
響晚斂狹
夕觸罔忘

聿滿大器
叩之因喜
唐如李主
天神有感
前席幾者

再挂高堂
同茲果良
梵素叱王
魘魅成惶
壽福無量

國家萬歲

惟久推長

于時元福十竜集丁巳霜月十二日
當刺十四也天蓮社香峯大察謹書

山前所為側性之院向高境
南北廿二回交五寸車約
五十三回是尺寸厚又寸厚百十六坪
海地

客殿

女寺阿蘇院

佛堂

本寺ハ春日氏俗禮古
八幡宮社神の御傍
在り初より口傳之り
早人弘明中三十七年
の唯礼下之御立之
二菩薩像以不知

正覺山阿蘇院

末山凡三ヶ寺

修治
出
海島院
長安院

方丈

女寺阿蘇院如來

座像

惠心僧如法元祖大師

名号及縁り

開山 心蓮社 本堂 角公上人長南大和尚

境内

○涅槃堂

○主夜神祠

右中結光の影

什物 荒塔

一 法陀三尊

無心僧經卷

画像一幅

一 元祖高成大師遺身舍利

一 御父時西公舍利

一 母 崇氏物海舍利

一 恒石

法苑珠林一字を石す
弘法大師尊

一 開山の御衣古金襴

一 七條一衣

と傳ふる安の美室出け初十品の什物 聖徳の御影あり

柳山ハ法洲より永福國中比連立開山ハ平良と信長ノ
甥也といふ一 後々御影を御影車りては開山の名を不記
建立開起ハる氏將軍の血統十五代義昭公の開基ニ元ト

南都一乘院の門にたりし時母の法衣院殿の名書撰建立

く正覚山法生院の法陀寺と号に法光の世の法中母との

角公上人長南和尙と云 法洲ハ尚也ハ別地而之ヲ開山トハ

成りしけし時の天下ハ因白秀次殿下にて自号ハ文祿比之

名書茶活曰 天文三十二年七月十三日斯波法親王又義統と法洲

の概之致因者五有 信友頼朝 聖云 寺ノ名を信長頼朝

孫ハ義統の男義親を尾形と稱す

涼受院四品第長山義公大禪定門ノ牌を法洲所建也に於て

法會撰りしと云々 右位牌之に御衣あり

あきの上 面観音 春日氏作 左儀記

開山長公院

照立

（天照皇太后御影
春日大御所）

邦中昭礼兼府下昭礼也
二箇の札所也

當院開基

方大
二代目

心蓮社観堂上人宗公大和尚

加観堂と人寛永年中の開基之観堂ハ昔日法洲開江の底
底よりより移るに山号と云はれは山と云を以て開基村長石御苗地ノ

と牌子に幸り永福道中一塔を造りて源為院号あり
 茂長 十六年 名古殿へ移す
 古く傳来向福寺の古久院ありと紙面に

源為院殿

天文二十二年
 七月二十日

右に傳明在形治部を輔極仰戒名あり
 治アハ守光源因考多クに攻心生害之信長極
 治源極の御知名方を以て覺んて即年考多ク此代治
 う御多ク中二に傳明阿治院とて治多クあり此時
 初鳥考たつ及希以會中 方御父 清川治多クよ
 七川更 御後堂 此院香を治多ク上院女極
 大和考多ク此院香を極多ク馬殿 三河考多ク此院香
 あるとい院 此院香とて治多ク中二に考多ク此院香
 右に傳明 此院香とて治多ク中二に考多ク此院香
 ありとて 永福道中一塔を造りて源為院

とやりのあみだも上人開山のゆりてん 上り山に
 右に傳明多ク尾州に立返はるる人この院極
 志やうとんどの是之元龜の比畠山より考多ク
 して茂長極が女の此院あり 右に傳明 此院香
 此院の 右に傳明 此院香 此院香
 此院の 右に傳明 此院香 此院香

門前河内海陸と南隣 此院
 其他考多ク表十九日 此院香 此院香
 一尺五寸 此院香 此院香
 此院香 此院香 此院香
 此院香 此院香 此院香

右に傳明院

地極院 此院香 此院香
 十八日此院

教報山極院

号一の院

此院世傳 此院香 此院香
 此院香 此院香 此院香
 此院香 此院香 此院香
 此院香 此院香 此院香

用山 空翔教意上人 (室台十一年二月十九日 化六十五歳と云)
 (中奥) 空誉俾藏上人 (寛文十二年方より 化八十五歳と云)

用山教意上人ハ始大徳寺に在りて二月月中旬に
 徳光院(後)に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云
 梅瑞は不詳に拓法と云々曰云 八月十一日梅瑞
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云

胡 徳光院の弟子快空上人の附屬院に在りて
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云
 徳光院に遷りて住持を勤行徳実兼梅瑞と云

教報山極樂寺隆報

夫此寺別創于古長年而有余年其開基報宏誓十五
 人原是緇林超楚名望高富時住持於因祐初熾盛唱於宗
 乘後卜孝繁於法洲永照山慶長日多申辰と新依庇清物
 此地道信者又故成而市修報建一字佛殿使号 教報山極樂寺
 由来十世當住持隆報不致爰以有法器決幕縁於法思語一口
 洪鐘以徹晨昏者也 尊貴 寺 是若劫知遍動也 畏同群
 有同姓上品 隆曰

有機而志 倭感而通 干幽于顯 同證口通
 重祝

天下和順 日月隆明 災厲不起 國孝民安
 伽藍興隆 佛日增輝

正徳四年歲甲午極樂寺
 尾州城南教報山極樂寺
 十世千空俊旭謹誌

門前丁東側法華院向大門
吉内東麓南北百十百三丈餘表
北南百九百四丈寺南表百八十間
少東東西七千三百丈八間餘表
九百餘丈餘表餘餘餘餘

法華寺

草寮

景陽山慈見寺

塔院

西側陽岩院

東側光德院

東林院

持日坊

西坊

中額 梳見院殿卷山殿 安公右居士

法華院 同共 虎岡和尚大禪師

中島尾陽用山 忠岳瑞魁大如尚

西院寺

寺願 三石

西院寺 南山名村因縁
八月十日法華院移村八の寺に在りて
中島村の村の因縁に在りて
と云々 忠岳の遺教に在りて
西院村の村の因縁に在りて
西院寺の因縁に在りて

三石取トアリ 元和六年
法華院の因縁に在りて
西院寺の因縁に在りて

法華寺古津州に在りて
信雄の信長云追福に
伴務の信明北市場村因縁に在りて
代雲の遺教に在りて
忠岳和尚陽岳他に在りて
西院寺の因縁に在りて
美牌に在りて
毎来に在りて
什物に在りて

新嘉掲額 故帳側画一男持捧

法華院の因縁に在りて
西院寺の因縁に在りて
信雄の遺教に在りて
西院寺の因縁に在りて

鏡と霞のこむかせぐべーと云 喜之 將和 永徳等 といや

永徳娘の居にあり又衣系 信と姉と 寺堂のありて

の孫の百年木の 名画は眼を凝らす 摩又

撞撞 (信直熱田神主の撞撞といふは此の比やけちに 有り 撞もさだりよ ありき)

用山忠岳孫孫詩作の間(と名を)し 服人の海に

雪 雨耶 equal 雨濺窓紗 寒氣無風吹弟加

日午初者松竹緑 朝来一様白雲花

楓 深岡柴門護燒霜 霜紅只恐出音墻

枝々勝跡十分色 葉々輸華一段香

延宝の面手信長の百回忌に 夏信

刈ひやれ榻のほしりま 百年の昔に如(御法)の車と

あき観者 十八あれ所 塔院 光徳院

○加藤町西側塚を向合 境内山林墓地

渡鶴院三宝院築造下は下

海間山修禱院

海間大権現

祭神 市花剛耶姫命一名 赤草傳姫大山祇二女

奥ノ院

阪間大権現

(此法大行高祖 之天 五奈の尊像 法古ハ知多 邪傳島 年々 之後 築田 山 延 禱 古 傳 也)

お殿

樓門 宮内品御改附修禱院色

境内 女高野観世寺 弘法大師作 ○外若堂

○善王権現 祇儀二社 ○正一位 秋葉大権現 一社

雲福天大権現

当山ノ胤 善王山 觀音寺 修禱院 郡民一山中 修禱院の首座

真云前 三宝院 門主 善流 紀州根来寺 因りて 尚飯縄の社

陽に御建創 之奥の院 市立 善王山 深く 真くして 市井を

離したる如く 平日奥の院へ 善信人を 擧げ 宮を 立 下 軍 修 禱

吾屯茨瀨國崇礼の善堂山岳救次 漢高参の送取有也。
汝来守の朝。参成ありし 宣曆十三未年改り有り十月夜
汝来聖十百参礼振りし

八月廿日 府下の修験者集會して 理趣三昧を修し 法樂に
倚の役ノ行者ハ人皇早代文武天皇の御宇に在りて 加別箕
面の龍を自孔雀の五の呪と観音 鬼宿と 驅逐し 且苦
修験の行者の功徳で 悉く自在の地を以て 屢々
修と謂て 修験の志願に 流るる量ハ 嶽に在りて 夜ハ 富士巻に
遊外不修に 大宝二年に 空を凌ぎ 悉く 今世を以て 修の志
行者の 根土信 前鬼修 鬼と云 和州 伴助テ 嶽ニテ 役行あり
鬼形と 捕りて 大巻に 並あり 其 齋と 以て 伴助テ 嶽に 糶
舎と 連て 鬼 取寺と云 前童鬼ハ 男妙童鬼ハ 女と云
七月 寺ハ 修験集會して 理趣三昧を 彼以て 理元と云

門前丁修者院南隣西側

古の志

善修下

その他北側 東為 五十石間南東為
古修者 東南に 五十石間西南北八拾
石 大門内 西門ハ 五門上 西東為
八十石間 町は 宮内 門 大門
五門前南北 宮内 門 五の七百 寺 五坪 除地

北野山志福寺

龍大須堂生院

大門通りハ 法修院 境内ニテ
修古修り 他ノ 前寺ノ 表
門ハ 為一有 管と云

赤山凡五十五寺

同十三寺 赤州地
寺ハ ありし 也

中奥開山能信上人

境内

○天満宮社 五門内北、方南向

○稲荷云 中堂ノ ○牛乳全社 上層

○寺子堂 天龍社 東南向 ○経苑 ○十三佛 ○宝塔 ○修徳樓

○方丈院堂 ○三王門 古修寺 額在武 ○息門 ○嘉門

什物類多 冥室ノ内

一 古之修架抄巻

用山上之感也

一 衣

根多ノ具者此所作

一 鬼面

同

一 面

一 檀函

根多ノ具者此所作

一 牛ノ玉

一 粒

一 目

根多ノ具者此所作

一 小徑

弘長元年

或也

一 天傷又自壹陽部二幅

此は傳ハ忽チ面赤ク故也

一 天徳寺中

神代

於林不裡圖侍の御舎抄し一卷五圖

待宴會

又時直幹順維時等の作者を載ス

又忽如

同御書 三年三月十九日 寺書 永義云

年三月

廿七日の御舎抄 寺書の作者を載たり 寺書 永義云

文治二年

秋下旬の御舎抄 寺書の作者を載たり 寺書 永義云

一 神道集七巻

安孫院檢律作 快慶永亨二年於

尾州朝日寺

寺書 古本今高福寺 寺書 永亨二年於

寺七十三冊

除ハ阙ス 寺書 國より 深層氏の著作能書

禁制 北山寺御書

元禄元年 寺書 寺書 寺書

一 甲乙人遊坊様抄

一 陸石紋巻

一 依採竹巻

付リ法及先作

一 在傳 抄巻記ノ書ヲ連

一 受齋科者ノ御書

永禄元年

尚古院 院前をくろくを披高の
安のら 兼節 口明寺抄
寺仁和寺 宗師 寺色正之依
執達 寺書
元禄元年 寺書 寺書 寺書
本判奉
寶性院 寂堂 山房

畧録起

尚山 昔の尾津寺中 隆形 寺書 寺書 寺書 寺書

大源に

北山 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書

北山 寺書

寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書

寺書

寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書

寺書

寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書 寺書

け後生を以て宝生院と稱す

○尚書唐史のより、九州の神、昭皇、其仍、唐史の起、出、唐

寺、世能信、此由才子、唐史、神、百、宮、附、死、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、唐史の、

却石有消日
洪音無尽年

華鯨高吼北山巔
月下老、圓碧落
喚醒六道輪回夢
百八十万諸佛土

觀世妙音玄又玄
花前殿々徹黃泉
驚起凡生煩腦眠
一聲剎界大三千

坐密来、深雲、觀所字、大宣學團、思修三琴舍、因
通自在禪原夫、く、如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

北野山真福寺鐘銘

○西云九月十日、大般若轉、天下、養平、万民、豊樂、因、と、安、念、の、

○嘉門、り、如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

○如、由、人、皇、八、三、代、土、御、門、院、曾、有、

右意趣者為 興禪院殿南後五位 云雄吉英孫壬午
一門号靈云親眷屬七世父由乃至十方三畏平等利益也
去英孫士雅公日下部姓初倉氏惣願前流後司宣
正申勸化修此善者誰是宣正賢相倉右衛門尉與法
法名寂窓空田居士也

正保三年仲夏 良辰法馬
當山室生院主陸印檀大湯野深雅

○佛師發の海石碑 三基也堂 後神意方アリ

三月の寧く鳴たき何のむ 東渡家公命八月廿日金
三井の門致くしやあの日 翁 元祖七代十一年日
名く如部之初乃花もふ 六く看覚傳也二く智因
右の海 昔く處る海

乃の海 乃の海の日見佛ふ 静也 宣勝云 言わく古の事

- 本堂 (事阿のた如来 ヨウラクノ堂と云)
- 十五堂 (十五箇の地蔵の十五 昔中世管ノ作と云)
- 大日像 (湯の地蔵の両者あり 此代家根あり)
- 龍藏寺 (相殿多し)
- 五重塔 (元禄二年卯年 秋建創)
- 稲荷五社 (瑞籬多し)
- 八幡宮 (天部天 山王社 希天)
- 稲荷社 (秋葉社)
- 稲荷五社 (瑞籬多し)
- 五重塔 (元禄二年卯年 秋建創)

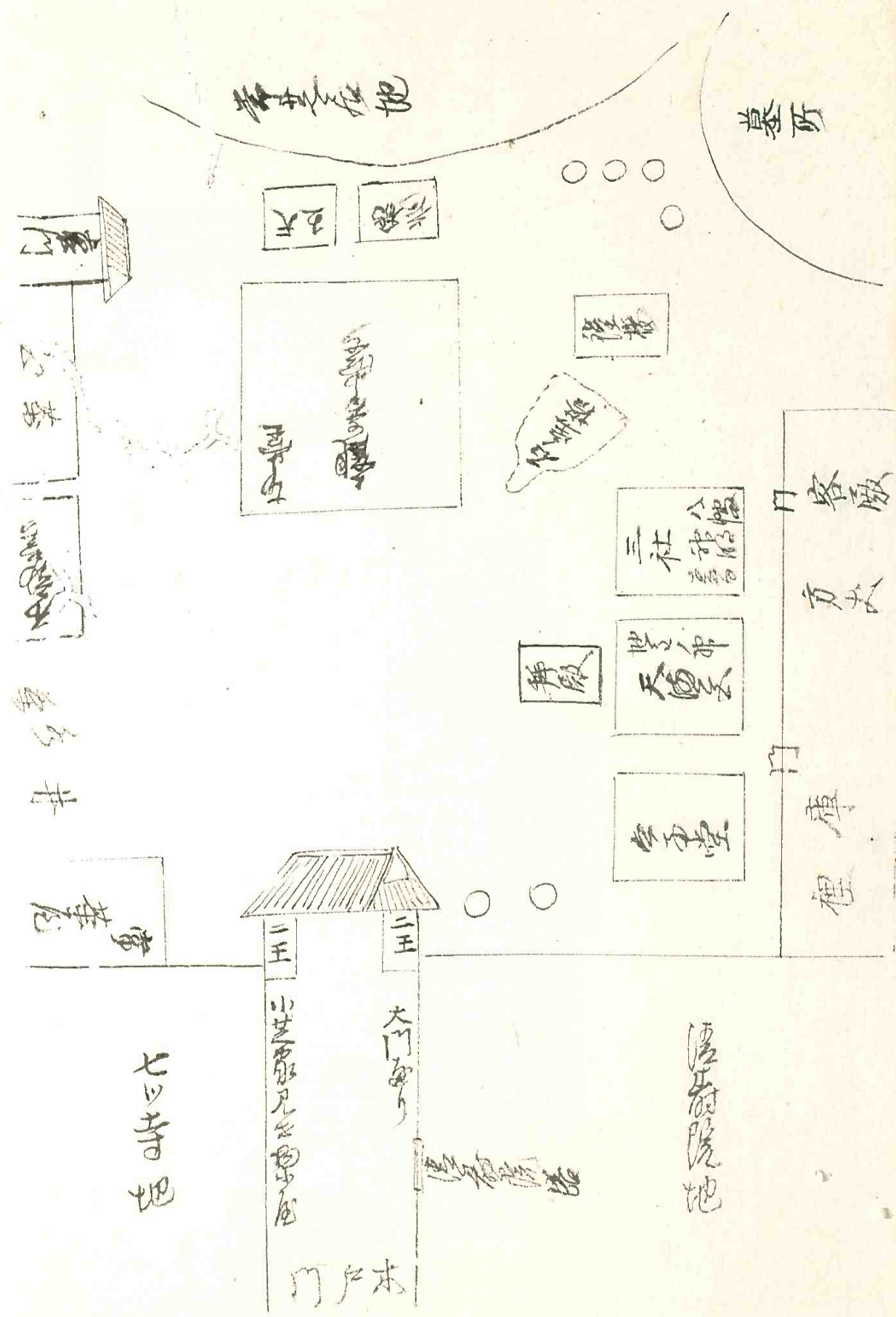
中奥用山宗務上人

中奥の阿修羅地 乃基井作
 振立 多門天持西天

門前町六本南隣境 田東地
 南北七拾五間 西南北三十三間
 半南東地百十八間 西地出
 西地出百十八間 西地出
 中修部七ツ打地 備前地

真云大塚色地 寺末
 稲園山長福寺
 末山二ヶ寺
 塔改 一糸路

けち家長ハ素門入はあり
 寛保の地ノ七の素門也
 云友二畝下地也 古地
 あり 什物 西地出
 大和と云と云



○石室塔 山崎寺 ○二十三觀音塔 ○常燈明 地誌卷十三

○淺橋 ○方丈岩殿院室移多

指南山江古寺後仍函命一系天塚性佛寺聖德太子
天皇七年(孝)初行基朱用基中治部中莊建創古修院
仁安二年(孝)尾張權守大甲治長師長重而建立塔
志云秘塔の石塔中興の祖崇德寺人の計時
指南山長福寺 改陽院院寺天四十九年自移寺春
日井郡唐洲御一按易地 宗基の良園(法)
同帝長十六(孝)名府々の地(川) 東山院寺
元祿五申(孝)八月五世の臣徳良快法師仙殿院に再興
百十色寺 二月(孝)塔營建也

寺記云 光仁天皇の御宇河内権守紀是廣と多人の寺
秋田城女に任ぞし奥州の城と信む是廣と多人の

時之妻娠(イ)多(イ)何(イ)の(イ)男(イ)を(イ)産(イ)み(イ)て(イ)光(イ)磨(イ)と(イ)名(イ)す(イ)夫(イ)
極多を母遊り光磨七年の時又(イ)多(イ)独(イ)り(イ)車(イ)に(イ)上(イ)り(イ)
尚(イ)由(イ)夢(イ)の(イ)驛(イ)に(イ)至(イ)り(イ)病(イ)に(イ)依(イ)り(イ)果(イ)ん(イ)と(イ)思(イ)ふ(イ)向(イ)思(イ)ふ(イ)と(イ)思(イ)ふ(イ)
卷(イ)田(イ)の(イ)者(イ)父(イ)存(イ)る(イ)紀(イ)の(イ)是(イ)廣(イ)と(イ)名(イ)す(イ)夫(イ)の(イ)母(イ)女(イ)に(イ)
車(イ)に(イ)上(イ)り(イ)終(イ)に(イ)死(イ)す(イ)是(イ)廣(イ)は(イ)尚(イ)て(イ)野(イ)原(イ)に(イ)蓋(イ)障(イ)の(イ)里(イ)に(イ)
来(イ)り(イ)是(イ)上(イ)岡(イ)崎(イ)の(イ)信(イ)也(イ)と(イ)見(イ)の(イ)體(イ)中(イ)に(イ)子(イ)某(イ)伊(イ)の(イ)像(イ)と(イ)名(イ)す(イ)
實(イ)に(イ)秋(イ)子(イ)也(イ)と(イ)知(イ)る(イ)伊(イ)は(イ)正(イ)業(イ)院(イ)に(イ)在(イ)る(イ)智(イ)光(イ)と(イ)名(イ)す(イ)
確(イ)して(イ)云(イ)秋(イ)子(イ)我(イ)を(イ)信(イ)て(イ)遂(イ)に(イ)死(イ)す(イ)は(イ)生(イ)前(イ)に(イ)云(イ)事(イ)を(イ)云(イ)
果(イ)て(イ)云(イ)事(イ)を(イ)信(イ)た(イ)は(イ)片(イ)時(イ)に(イ)獲(イ)る(イ)事(イ)也(イ)と(イ)云(イ)る(イ)事(イ)也(イ)中(イ)野(イ)原(イ)
上人(イ)之(イ)を(イ)憐(イ)み(イ)て(イ)寺(イ)院(イ)の(イ)法(イ)方(イ)に(イ)禮(イ)す(イ)初(イ)男(イ)と(イ)名(イ)す(イ)香(イ)と(イ)
覺(イ)し(イ)初(イ)摺(イ)す(イ)後(イ)に(イ)一(イ)カ(イ)香(イ)相(イ)見(イ)の(イ)面(イ)を(イ)掩(イ)ふ(イ)時(イ)忽(イ)ち(イ)眼(イ)を(イ)開(イ)き(イ)
云(イ)陰(イ)生(イ)し(イ)時(イ)の(イ)如(イ)し(イ)是(イ)廣(イ)歎(イ)き(イ)て(イ)父(イ)子(イ)の(イ)情(イ)を(イ)語(イ)す(イ)に(イ)云(イ)昔(イ)日(イ)
既(イ)り(イ)して(イ)而(イ)見(イ)張(イ)たり(イ)時(イ)の(イ)兄(イ)聞(イ)言(イ)嘆(イ)致(イ)せ(イ)り(イ)云(イ)云(イ)云(イ)昔(イ)日(イ)
多(イ)地(イ)を(イ)留(イ)り(イ)鬼(イ)地(イ)と(イ)云(イ)父(イ)子(イ)生(イ)前(イ)に(イ)云(イ)事(イ)を(イ)云(イ)る(イ)事(イ)也(イ)の(イ)表(イ)し(イ)ら(イ)
云(イ)彼(イ)見(イ)下(イ)持(イ)の(イ)仙(イ)像(イ)と(イ)云(イ)寺(イ)院(イ)の(イ)樹(イ)葉(イ)所(イ)也(イ) 地誌卷十三
云(イ)後(イ)是(イ)廣(イ)也(イ)と(イ)云(イ)又(イ)云(イ)遺(イ)て(イ)云(イ)光(イ)院(イ)寺(イ)無(イ)創(イ)して(イ)七(イ)字(イ)

の精舎を建維時 聖武天皇延暦七年母之昭母辰友
寺の佛舎の像有り七束の思ふに福正尊を寺の仙堂並
建を以て時信を寺と云ふなり

亦云中比徳剛より七堂伽藍の美場在七寺と云ふこと
亦寺院縁起を前も書く 紀元廣造廟して七新寺と云ふ

その後七寺あり 人皇七年八代二條帝の比叡信光河
内守の浦に移居大中長安長の朝臣藤原信光に作て妙部
那陽城に在り安長に一女あり安長二年あり其八日
七歳にして死を一切経を學びて易術を山内能言を其
寫としむ言金院安元元年に始て海原二年に終る經を
有る乞ふるに各能言として經を承けたり 如して其感
懐有り 在一切經檀蓋表

勸修 延暦十五年所權現大明神 御蔭前

謹 諸一切經安置同五箇修起諸佛

一後、將來寺あり其寺有獨竊なる用唐檀事

一後、將來能移源明人其奉借出他處他境事

一後、將來寺中借信他人語竊不可借出也

一後、將來經函中能為言の事 諸之殿一合不有檀事

右其為神能此邪見夫以世間信言或為出能或為能
敵或為盜夫其然也其然也其然也其然也其然也其然也
有奉請一合連其者奉請一合令返送其一合後又不可
奉請一合連其如此用一度臣多奉請之其永以停止
何況於他處有請哉其皆此故人者不可任大勢轉

勢大勢即 八敕明神也 神威嚴重者人誰違之
願經中可載三等奉請也 諸法不違法也 諸法不違法也
住却却 佛諸 寫之能 龍和鬼和 全無見給謹起諸佛
治養 二年 佛中 八日 願之如大判官代 敬信也 中 安

勸進 大徳師 僧宗 樂後

○辨放天女社

弘治大佛彫刻

洞殿

多長

山上、
弘治大佛
彫刻
互橋

けき海の西新下杉山新島の方、惣集と云無二版(自土)月
廿五日、近宮、法座、山、天女、神の杖元、の法、神、南、山、五
指、現、之、度、年、又、天、と、一、時、に、造、立、吉、法、指、校、弘、一、法、座、が、本
形、たり、多、井、の、額、は、法、座、の、羽、籠、へ、春、帝、が、在、り、
毎年十月十五日、多、井、の、法、座、の、寺、傍、普、門、品、傍、禰、の、後、客
廳、に、修、く、荒、首、弦、琵琶、奉、家、を、吟、唱、は、天、女、御、中、始、り、
々、以、不、後、會、合、り、

神社落蒙云竹生海社、竹生海神、在、近、山、傍、井、部、下、

最勝王經云、布衣天、ハ、為、閻、摩、長、婦、
亦、在、坎、窟、及、洞、也、

先、以、水、邊、に、法、座、の、神、と、し、女、神、に、及、布、衣、天、と、習、合、ん、

義、楚、六、帖、あ、ど、の、伝、説、の、説、と、い、ふ、處、の、あ、に、祀、奉、の、布、衣、天、と、

異、版、也、先、賢、の、説、を、た、と、し、爰、に、畧、と、

社、傍、池、を、了、泉、壺、多、く、其、に、池、人、を、殺、也、池、に、捧、茶、座、下、禰、
昔、年、
舊、説、あ、り、形、を、並、べ、屠、蘇、の、説、と、う、た、ひ、也、也、

○三十三觀堂

境、因、也、

に、あ、る、處、因、因、三、十、三、の、異、傳、く、是、の、説、也、

の、も、形、を、く、元、之、堂、傳、の、此、の、説、に、お、外、毎、年、を、り、十、功、の、山、講、
六、次、説、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、
形、を、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、
て、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

○常、安、燈

也、坊、南、

寛、保、元、辛、酉、の、日、
八、日、あ、ち、く、傳、の、説、

常、安、燈、を、用、也、
其、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

上、(遠)、一、常、安、燈、の、説、

上、(遠)、一、常、安、燈、の、説、

○常、安、燈

常、安、燈、の、説、を、く、元、之、堂、傳、の、此、の、説、に、お、外、毎、年、を、り、十、功、の、山、講、

六、次、説、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

形、を、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

て、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

○常、安、燈

常、安、燈、の、説、を、く、元、之、堂、傳、の、此、の、説、に、お、外、毎、年、を、り、十、功、の、山、講、

六、次、説、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

形、を、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

て、傳、を、あ、り、の、説、を、く、主、後、傳、集、を、多、信、人、合、中、あ、る、處、に、

神功皇后

丁丑

崩

御見御香宮祭あり

初詣

甲申 中宮崩

八幡祭 子ノ初申ノ至朝ヨリ

今人親王

丁丑 七年十月

御祭祭あり

菅原

丁丑 七年十月

宰府祭 八日自正百至

登日ハ是吉礼也 志自惣徳ノ日ニ山礼ありのめ 是上田ひび
と渡身拾造 出ハ胎ハ是ノ勅考トベ

○中堂 掛有 瓔珞至而結講ニ他洲ニハハ中堂ニヨウラ堂

稻園山長福寺後記

尾州府南長福教寺者初在中島郡今ニ寺創是其舊
趾也仁安中從夫中島郡如安永州創ニ山號稻園寺榜長
福以堂殿七号一夜落成俗呼為七寺後多盛運也堂因
極巧接薨山峙院宇彈麗別區星分蓋莫似因ニ風範豊

衆因ニ宏制為累重星紀毀頓覆至矣天正末抄殘宇
餘礎於腐須邑不幾慶長中又移那古府城下跡遷跡更
不改舊觀者極佛殿一宇其餘僧院庫門廼北古昔ニ綿
構也其遺像殆院者行基菩薩ノ所攝規矩也至者運港
兩工ノ所運斧行去庚寅ニ永前住良祐上人臨城告良長
爾架及諸徒曰曩者在清眞邑而梵塔亡矣邑豪鬼氏
宗敬與同志良勳力兼激揚緇素以造洪濤一口然南遷之日
不幸破却咨嗟不續速微願未果命藤此斷不能無遺憾
焉囊中神有旃長子等有意于茲乎言已奄逝矣是以爾架
率傾先師之餘裕收舊時ノ片朽併以命治工越慶安辛
卯之冬長痛新出型選適見即無不隨喜固請余為記因
辭不聽迺抽毫云 洛日

稻園靈區
山毫婉轉
匪席弘願
劍轉暫脫

地樓府城
海月泓澄
洪濤新成
渡湯休薰

堂富常危
四王冥清
法舍有節
水島和雅

金容如鑿
鴻基元亨
大千傳聲
行樹向榮

期三會院

法燈指明

福迨群只

其澄無生

慶安壬辰歲暮二月

東岳山門運藏謹誌
住持 苾芻 良長

○知川庵塚石碑

石面

九月廿五日

日角なる名こもり

月空庵

石ノ右

名を露川庵と月空と号し必有りて又存す秘は
是に伴州のなまに云々 兼澤州の在府に於て性温
順柔初として好む交滑秘にゆり弱冠をす珠を
窺ひ仕業に及んで蕉翁に帰るは講の由に於てを
程たれとして日の勢は陽の陽も肅き心せり山の名を記し
ある南陽の春也也に北敷の雪の袂をさしきりて

石ノ背

化して正風は従ふもの凡ふと妙をのりし者れは
世に誇るは次羽衣の吟唱をもち樹に風ありと為す
後偏とるまを好む秘に十月の秘を前秘をも
何ぞ孤あるんやそを吾師白形りに告げて門人
深く面影を慕ひ地猫園山の傍に中此庵の礎を
置りて後一 汲入庵の句を刻して置たりとる景
行と福をけ地又何物を見生の魂一とて任ん

石ノ左

あさきの初産る生ひ漸くはしやあきの里
霜を経るも吾黨の人の笑に顔を傾けさ
免やハコを後す」曰

雲霧の葉をえらひども 天が下

門人 白桃子謹誌

延享元年甲子十月十日 建馬

○石井筒 上裏門内 長さ茶房ノ際・生リ草澤十八五平寸
 此地：大草草平りて水程云仕延・手取内・地多井之
 ○須賀精亦先生碑 墓入口 在右・アリ草澤平山以遠建
 ○葛谷先生碑

○山形七ヶ寺南隣 西側境目 同並行あり
 寺鏡表南七七拾百八寸
田北方平言 在右 西並行あり
南方正言 在左 西並行あり
又その零八十五坪 存也

○在右

○在右

本尊阿彌陀佛紫銀檀

左 親書上人畫像
 右 清海院從如人之畫

餘間

左

○在右

円山 名山後祀師大 上人八葉

兼壽法台持法僧如信隆院蓮如人

開基

兼宗

持法僧如信隆院蓮如人

寺額 百三拾九石 五作

○中堂 ○院室 ○茶所

二階 在右

○障障

通照因額

在右

○在右

二十九

南山の蓮如一人の時務刑業右那長協の門院一寺建之如信隆

蓮如一人一寺建立之蓮如一人一寺建立之蓮如一人一寺建立之

蓮澤の地内はわが長治松尾村一と云う相續するが實惠と云正
と云う所は彌陀と用基千の時修持品は松尾寺と云ふ山寺
二世隆興の時開山して人々而回忌の御後山に立致 天正院あり
成して六代目住持先天下の二僧あり 寺の古蹟は亂れしは松尾寺
知國の分年より山形地へ入るに府信雄のくまに尾州松尾寺に
松尾寺を再興す 寺の後素在松尾門院信雄のくまに松尾寺村境地
南北に百石あり 寺の古蹟は亂れしは松尾寺と云ふ山寺
年中長治松尾寺の後松尾寺名一寺信之入るに松尾寺村境地
西進の寺は高僧の始より 松尾寺院三松尾寺の寺あり 松尾寺
ゆゑ高僧と成年春好 寺の古蹟は亂れしは松尾寺と云ふ山寺
送山輪番僧徒交代寺勢熱
中興寺再興の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり
寺あり大に松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり
奥の寺の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり

境目
高昌院殿の寺
高僧千六百餘年より十一日通るに高昌院殿松尾寺あり
高僧千六百餘年より十一日通るに高昌院殿松尾寺あり

松尾寺三関の眼寺あり

聖松山寺馬也

寺山隣院十三ヶ寺

山形町南大次向合後内
南少三十七箇より大寺あり
一より大寺あり 松尾寺の寺あり
松尾寺の寺あり

ある釈迦佛

松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり

中興開山大輪東嶺和尙

天文二季より自延化
元年八十一と云ふ

尚ら松尾州竹鼻松尾の初年仲創善提寺と号し
玄翁流して松尾の教生あるの由あり 寺の古蹟は亂れしは松尾寺
宗門の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり
尚寺中興大輪東嶺和尙相澤正眼寺八世宣叟和尙本末
の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり
改号す昔日善提寺の附持寺あり 松尾寺の寺あり
寺山正眼寺の寺あり 松尾寺の寺あり 松尾寺の寺あり

竹々鼻の隆州へ易地遷移す近所の刻爰に移す耐光規の
こゝに隆地相伝志山土の防障致東南之

靈杉山寺爲寺遷移

惟杖桑東後尾陽屯知部名古居柳而清村是靈山寺爲寺
者天恩多承流大倫初尚初用之古律剎而唱於五位花鳥之
秘釋道場也殿閣門無蔭維爲一方叢林且閣於陸魚
一樓特能存花籍將爲破陸矣予遊性以來欲改補其
闕畧竟未得天幸日往月來而覆風凌多矣與與信
檀越有出氏昆才松右衛門因姓七郎多由若謂予云予
擅門被信施巨路藩予即使干其脚縁功既令師工干
準者築於一字小樓於殿是時乎將又爲陸之推輿之昔日
於此世梵王降也多被從陸藩全陸以來乾坐此古於精舍
不用之故陸以蒲牢一箇而掛樓上品催飯粥農香分打
盛於仙陀室池多乞願方之則閣者上公卿下士農工商人等
離迷情出自皮袋偏趣仙地者也皆施主善思之力也哉

故聚沙爲仙塔 歐成善根何況於陸室陸之志乎故出門
之繁與檀越之榮盛又返哉 張曰

蒲牢形体 濤波再全 高樓動地 條閣仰天
見除三業 圓解十纏 紐輪累域 中用無違
晨香暮燭 盡誦夜禪 風吹蕙漸 霜降大田
檀香粵盛 寺中安然 奸音盡 幾億萬年

寬文四年 甲辰 夷則 吉祥日
當山古世雲山叟謹誌之置者也

南寺檀越 大門南側之所家之處也 南山寺古久矣寺表門南向
萬年寺 向今寺了後年之のこゝ 東向に門代也

○ 車例等爲古南隣と他南山
三年の月日 寺表檀越言定メ
寺の百五十五坪 陸地

宗係山淨大寺

中言 釈迦如来 十一面觀世音 中興也

開山不詳

二世山叔登之和尚

性旨の國書法次郎町の史述
府の刊け久く易地多々名
○性旨の父親書
其の父分
聖多書宗匠寺
也る用此也

○降る南隣境知南也
古有東海字古有西之隣地

古有以事

持永山光貞日

古有正親書 初基作

當寺也
中興開山 仙桃林翁和尚

開山不詳

理延仙僧三洲
持永山風耳寺因轉

遷開轉為丁。寺り遷府の御
易地古くハ寺對院之由也
傳り也け改号也

在國以事

日岳山東蓮寺日

什也 涅槃像 一巻一幅

○光直寺南隣境知南北
古有東海字古有西之隣地
寺り也の寺り也

古有釈迦

遷不古ハ土面家
古宮法眼作中興也

是ハ遷開の寺り也
遷府の御り易地開山
開基建創之由也

地無名

古有札所

在國以事

玉琳山天竺寺日

○古有南隣古有南也
古有西之隣地
寺り也の寺り也

古有釈迦 作名知

開山 隆如也

遷開の易地古有ハ島陸院下
之御院也寺り也中世改号
建立由緒ハ傳來也

古有地無名 古有札所
古有三濟の荒禪初 神仏

○天竺寺南隣境知南也
古有西之隣地
寺り也の寺り也

在國以事

古有山安用寺

一刻令十の定於敷 享保十一年（西暦1730年）改り其の年乃久す
 と因一刻五分の利息に如（年賦）に依りて今十石の定有る
 上内令十文由り及敷在因賦上納も宣暦元未年と
 有候

○あゆ 考原 七の橋町にて多りか變田あるとの間遊居
 同原に有く 並吉の街なるりしを寛文十二（1721）年比中
 令と市并相了り同吉の比と並吉中よりなり
 希丹も言如く山庄に吉平八日と有る夜も中始大喧嘩
 と云ふ一竹橋家の後士助等が果以て橋而更被と有
 飛長色色夫の傳へよ、け有令と云原町長榮と云り
 ありと云あり

日蓮宗 聖德太子

○檜町西側在因遊遊角
 境内北に十坪（寺）を祀

七面山妙寺

七面宮 東向

寺

寺

檜町大明神

用基 大山
 大世

元禄十三年壬午三月廿五日
 中道院日春上人

大橙遊

圓妙院良延日之僧士

奉為中條長以

別卷

七面宮

宗勝公令懐の松を以彫刻を令し御考を
 御考を御了れ御力品一志を御の御考

と常鬼子也 御考ハ別中山鬼子の也と云り考用
 多石の額 宗春公御校廻ハ此寺附七面宮内の額
 題云 御考文字七面山 源義公七面宮の御考御考花表に
 掛ケ 孫少々ハ御考メ寺に也

当山ハ延宝八年甲申 瑞云 御考御考の長乃御祈禱七面
 大明神像 宗春長以自身を彫刻御考祈禱 奉仕御付
 御考御考の後寺像 御考御考 上院より云后
 御考御考 永く御考 御考御考の如く御考御考
 御考御考 長仙村子山御考御考を引寺ハ御考御考

有建の寺

寺院のけ地ハ葦原中橋氏担ひるなり七面像ハ松
元御殿内ニ有り一木 瑞云御殿格の七種相出まふの
処南七面ニ坐す其美の少貴阿の長似も同之者を多ありゆへ
以建創建に御殿相も草念愈々近々御心大なるに西
の七面宮より七種相の御殿見へて七種相の御殿なり
當寺に御寺の木子なり 幅一寸五分計り長四寸五分計り
厚八枚浮世又平、画々、処極彩多きを有たり

○八幡宮

檜町七面御殿
裏より西へ北側

昔の御殿
土名 藏人

市州 神名帳より 従三位日置天皇

市部 日置色に志す 山田縣 民俗云々 千本松八幡 持姓氏
源 日置 朝臣ハ御初天皇ノ皇太子守玉後ハ傍り也

元 金と云ふ
巨 哉

高魂 令ノ後ナリ子日置之相と云同
号八幡者

永祿三午年五月十の辰日 桶廻間合戦の時 當時祈
禱多し 今く獨利の辰日進へる等の書を拙られし
宛てて是年比改り申 拙所と云はれし其書を並べぬ
拙 前にも述べたるや御書の後云々として 信長の拙地に書
を多く 拙られしは 御書の中へへの性字並書云々の
ありしをよみ書と云はれしは 御書の中へへの性字並書云々の
拙は 並書云々のと 光の御書の中へへの性字並書云々の
古きと云はれしと 拙をいふ 誤り

○今町表 拙所 屋敷内の角に在る大寺を助家御初は
車りけ急と云はれぬ 拙の御書にや 今くは 拙城に在りし
標町七面ニ坐す 御書 西へあり
その他南北約半八尺あり人七寸あり
宇内の人 亦南ニ坐す 約半あり
北ニ坐す 御書に云はれぬ 約半あり
標町 御書 万幸あり
標信山 高野寺

あき正觀世尊居處

法名

秋葉宮

中興

再中興用山社海智尚

十六日漢

中興内
あき

孝門額 退レ凡レ圖

曹洞正宗西來良高書

尚ち古く東輪寺連永安も寺として傳布せし遷府の御易地
先規のあり永安も寺として寺の地を及ぶ破致正眼寺
住持崇山和尚を傳授せしむ府のまことの地内候と判
示ありしに東輪寺に改めし再興後年崇山和尚考築宮
院既、自當ちも考築院に改めし後、大休智高和尚の
傳之教を住持に任じ三年長、四君万杉も、之傳別万杉も
の建立候處ありしを祀りて此地に東輪寺ニテ寺あり、日
乾の寺の廢ちて改号、今も寺中、退轉の後、百壽寺の
社、海智尚隱居の地とあり、(今尚殿に中興用山とある也
とあり)

○密嚴院記

(橋河、柳室に和寺考真、云々の寺あり、秀島山と
云、南丁、火堂の宮、秋葉、西門、新、築、田、村、の、地、也、以、

橋河河側 あき
在、西、二、間、五、尺、の、下
南、山、に、在、り、大、寺、下
メ、百、五、十、呼、自、首、地

西門院坊中

延慶寺

あき河みだ

開基圓知坊

あき河河側、秋葉寺考真、云々の寺あり、秀島山と
云、南丁、火堂の宮、秋葉、西門、新、築、田、村、の、地、也、以、

菅原流字法万福寺

護國山東輪寺

橋河河側 あき
在、西、二、間、五、尺、の、下
南、山、に、在、り、大、寺、下
メ、百、五、十、呼、自、首、地

本堂也

虎善賢 柳子
文殊 象

○地蔵堂

四月三日 限元
君法會あり

方丈也

念仏
銀三アリ

○三尊堂

開山係正徳廿三廿世中華即此如一様作

廿二世中華千果安立和尚

横門

額護馬山 兩幅也

寛文十一年の若創也 後元天和宮家の間退牌の後年
至元初乙申年一 再興以干何 西命 是く初に方境を
臨みし時 江戸長私尚 長壽の 借侍之

護國山東輪寺 隆銘 希引

尾陽城南護國山東輪寺者先百丈老人托法子天祐州創以
講雪峰祖翁和尚為開文祖矣特蒙 國恩住尾陽一宗
之僧洞實吾門東海之一禪刹也京保五年庚子十月予
以法系親蒙本寺 陝隘 寮舎不便不悉坐視唾手
起工棧石搬土 範市化 幾凡叢林 所有者粗備焉
唯以大隆為關而已 按隆者 禪林 菴社 巨物
推曠拘樓 秦之青石 範橫橋尸迦之白銀其守已久矣
捧 孟於來 鳴拈提德山末後句 披七條聲前 矣揮
韶陽定機迎賓送客晨誦暮誦進退揖讓威儀
滌々可謂三代礼樂在此中矣今茲田邊氏某甲等
捐金勸力請為補葺之 願主于 羨之 許諾更募緣於
大方道俗爭先樂助焉遂雇冶工馳畫廉神於案案
招丙丁童於爐百帳千燭雲頂而成矣仰 願繁興
教道流行以報西恩以答檀信噫偉哉豈可竭言乎哉

源日

鍾韞天地	棄籥大千	須弥所子	春風徐弱
森蘿万像	一天燉紫	等闲流出	空背高懸
未動扣擊	響震山川	破露柱夢	驚燈籠眼
眼處傾會	何滯耳邊	文殊親棟	能仁勅宣
口通五々	音聞焉先	沙婆散體	宜哉在焉
聞此音者	立證石泉		

享保七歲壬寅季春初六日
臨濟正宗北五世
當寺幾四代沙門海旨蘆江謹誌

○新地

（新地と云ふ東臨寺 和表京條の地）
と繁也の地たりと相と云ふ 委款也なりと云

○市部 莊古渡 市町あり
（北ハ橋町 大木戸 隆南ハ藝田地 境と五百三十五間）

柳表ハ他屋街及第と三町半余大なる條あり 尾段橋あり
北側古渡の内新町と云 但南側ハ藝田地也

堀川 百三十五
東側ハ古渡 西側ハ古渡 八百八十
東側ハ古渡 西側ハ古渡 八百八十
九町三下 南ハ古渡 北ハ古渡 五百三十五

市部ノ莊古海ノ里 湛古一名片葩里 片葩里セ

亦一女子村也
或年一老婦知船在海上遂に淫年福有入等女子七人を持て
七人の婦としてを淫年等たり一女子村ハ七人の村との号ありて
その跡と云は婦女の住一処と云け地と一女子村といひしを
後古海といふを亦古海ノ形ナ不名知れり古海ノ里と
云へり古海ノ里ハ古海ノ里の古海ノ里と云く改稱し二女子に女
おめ子斗りあ今古海古海なり

亦云平氏の古肥古海自能尾洲に爲病に附一女子人
居り同日に二つと云て淫年福有入等女子七人を持て
の田をと漁倉に立て 宗頼 西念 宗頼 経路に二人に婦人
市代との名としてを淫年等と云は古海ノ里と云く改稱し
の女を村民に附に外すに古海ノ里と云く改稱し
へり初初初の名を古海ノ里に改稱し今古海ノ里に改稱し
古海ノ里と云は古海ノ里の古海ノ里の古海ノ里と云く改稱し
の古海ノ里と云は古海ノ里の古海ノ里の古海ノ里と云く改稱し
の古海ノ里と云は古海ノ里の古海ノ里の古海ノ里と云く改稱し
の古海ノ里と云は古海ノ里の古海ノ里の古海ノ里と云く改稱し

日知 靈異記

(古海 帝ノ御宇)

尾張國豊前郡片葩里

ぬの大力ありて 同中 豊前ノ大領 宿禰之政利の妻
室強力の記ナ 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海
淫者古海村ハ古の海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海
と云く古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海
云々 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海

古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店
古海街店

昔よりその名を知りぬ古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海 古海

橋乃 古海街
古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街
宿乃 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街 古海街

の御堂寺 ありきの 孝巨佛 をちるてお寺の宿に至り 板山 二所 池を
二村山にかかりし と 古争に記せり 橋に古争の、舊号あり
てあり 言一 女子村と古海と 改號せし と 改號の後あり た
とく ハ け色を押し く 古海とス て

古三昧 性吉け処に暮居の有りし 西徳の始 新之船名新
引遷 され 一 時 古争 初 あり と 海の あ 引移 ハ あり と
あり け 後 不 審 之 前 地 の 後 に と て く 海 あり ハ 古 三 昧 を
易 地 と と け あり ハ たり 有 ハ 女 し の 墓 の あり し 也

上市場 中市場 下市場 古 寺 の あり し と ぞ

南本戸 あり 安 寺 の あり し 也

山七ヶ所 大塚山 二子山 茶白山 瑞々山 あり し と ぞ
と 海 あり し 也 の 方 け 寺 の あり し と ぞ
大塚山 ハ 南 村 あり し 也 の 方 け 寺 の あり し と ぞ
二子山 ハ 七 ヶ 所 あり し 也 の 方 け 寺 の あり し と ぞ

寺 あり し と ぞ 大 塚 山 と 二 子 山 の 間 に あり し と ぞ
け 目 柳 あり し 也 の 方 け 寺 の あり し と ぞ
千 あり し と ぞ 南 本 戸 あり し 也
本 戸 あり し と ぞ 第 一 の あり し と ぞ
新 所 の あり し と ぞ 昔 の あり し と ぞ
新 所 の あり し と ぞ 昔 の あり し と ぞ

古海地 あり し と ぞ 南 本 戸 あり し と ぞ
古海地 あり し と ぞ 南 本 戸 あり し と ぞ

中興開山 あり し と ぞ
院 あり し と ぞ 不 動 明 也
慶 應 法 寺 あり し と ぞ 過 去 時 あり し と ぞ
宿 あり し と ぞ 任 牌 あり し と ぞ

房をて振手寺院を回に 前次の中用基と云俗平次方
大指るの密に後場をのづれさ越山にせりあがし陽迎の身と
ぬり居られ平氏悉くさび 彌倉の代よりぬり山陰瀬川
の若車由にも向せんと苗削をすり落つに英徳の比に旅
骨に過し雲の布れに依てとら身も安んと世に何處か
あく粟白の二大馳来り 昔常とこそよにきき後傍のゆく
入し雲夜より斗りし形して附臨女抱しるも後く後継心
付て老々にあそにもあ天際のみまもあり別二大りきか
大田神の候も昔もあ瑞を感邪して処に神の庵を懐び
二大の瑞を御し 妙在中りこれなき記跡もあてあ火災に焼失
け疑もなきの後に手付あくる由里ある斗昔の候もきき
幽淑傳く事常の理しと客久は居る梅町と 上か山陰五北柳
寺寺とて山丹具を附の中奥前記るあるそ何事と離別
こも後 瑞移瓦の御位將あはし初常令をさし附て島附
の罪も有くゆり あ僕は客久は居る再興時代の現存とハ
此類本願寺 山陰五北柳 寺の物語

指山山は後武前院イニ王と号し後にちえ堂と云昔のけ地の
形も比後院の相ちあり孝に別を離さしに或附けたを幾ひて
將にぬられぬ山イニ王に申してけかあるくぞ想うぬりくきき人に
逆さやゆりて呪ささぐとん徳也も既に妙付イニ王と云なまあるれば
刀をぬいてわの首を討置ひよ けき也に病より指に接する人
を窺 怖るしと毒毒蛇にひりきみけりも中を喰ひ切てと別
主人気を見て大に驚き怖るくいあるけかあるくはしハ想あ
命をとらまけんゆとてわのねにいらの夢を建立たしと云

正史記云 方凡嘗是わおとあきるに若よりいぬ少そと後世
にふあするも二夜ありてを一説はけ処にとあ夫あのみはし或
時指に申すをに山深く入して途に迷ひ山羽も傍らある時
も家長の夢しる人に向ひたりともき自鏡メして夢を遣ハ
思に止ゆのめをひきりて侍る若人の振舞を侍る人も力不皮し
て既に自室とせんハ爾時此置も向し何れもききなり後世を
を喰報しりりも人ハ怪にたえは秘藏せりハ梅の雨聲し
るあはた又堂をさきよと祭りた取れをひくれさしと云
そ一説にあに云毒蛇の一件 何處が實りその正説也知らば

是所の説九亨新書は横州六寺の史記に似たり極む
横州の二神と云に附會はと見えたり家神ニテ殿傍の病
中の院寺傳に在るなり
付ホカ類キトモ云々云々

日也或る東征の時路に迷ひ玉ふに白犬ありて導き里へ出
終ふ日卒後には橋社といふ井を祀り社を云々云々
有りて後古藝田社まのへ
カ見堂へ必立堂ありて清水の
茶と飲する所ありと云々
細川入左衛門

ひりり〜とある堂を祀れハ後に此の所へあり

○稲荷新宮

左日置古後兩邑境地極長古風也
社境在島古松大南北並三ノノ

古井 在後

中社 東向一丈六尺
前至四尺

左右社 社廻轉

御殿

南北二丈五尺

庫

御供所

竈

門

東向五尺

井

裏門

北西

南西

北 山王権現

中 稲荷大御神

倉稲魂 御始り現存古刹山

倉稲魂 御始り現存古刹山 倉稲魂 變り神

南 五條天神

五條天神

稲荷代考云大三貴神 倉稲魂 變り神 倉稲魂 變り神
菅天下 摸力 茶生及 畜産定其療
稻方下 下界

○命婦社

○白狐社

○花女社

○宇賀社

○大歳社

○長者殿

稲荷五座

目形昆澤村肉

正徳二年三月御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
正徳二年三月十五日御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附

稲荷社正徳二年三月十五日御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
正徳二年三月十五日御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附
御建立同日午自三ノノ五ノノ百石並附

○葛野江 稻森宮西南の方元久の比ハ高嶽の麓の
の地たり之ハ細く狭く面狭し

○古海地 箱崎より西の方 西側
境目 陰地 入交り不詳

後曹日平洞の事
龍洞山大泉寺 平

古寺正親世帯 七田の事
入代は仍舊作

開基 寛永十三年九月
大泉院佳山道行居士
快壽院 笑巻負合堂

開基大檀越 赤坂牌子
并ニ本海福門ノ尼の形
為取今や俗名と不知
山ノ号と 邦屋瑞雲
下ノ號と云ハ 伊豆野の
百位の人と云ハ

用山列山芳全和尚 建創 二世 日別 禰東和尚

境目 門田南向より 古海昔日三徳の
田ノ地帯 比田中 建隆ノ美濃他に越え
○庚申寺 表門の二東向
に書とす

海ノ洞仙古任職 禰東和尚 龍石下に建立 寺山の号と授
瑞云下之孫 自喜之十子 引之の教お付 佐を曹洞宗と
非信他の末寺持制 禰東の白雲山法持寺 末山にお
ぬり 永代洞仙も 門田院 石にお虎座 尚也を法持
より洞仙寺に在り 今尚也に安んず

後曹日平洞の事
瑞雲山洞仙寺 子

○古海 大寺より町へ入裏方
地畝五畝十八歩 尚也前陰地

前寺の正親世帯

龍石宅知一那ノ初孫 龍石の御曹の
親方ト云ハ是ハ 龍石一徳修末
七ハ 龍洞山の事也 尚也洞仙も 龍石
所ハ 府内 唯礼二十三畝の礼所

開基 後曹日平中人 玄的法師 大檀越 佐々正勝

○古海 大寺より町へ入裏方
地畝五畝十八歩 尚也前陰地

窓を開キ一乃三礼の製作 漆類信物 漆儀附多類 義
 義者必多義者類 物類 至形物有命 若木尾尾有物志
 按者くお孫代々 崇く 史家元子自由 天智子
 法原 感持寺 天智子 洞仙も 證者六七等 伽藍の大 冥場と
 いはの 時々の 申言る 迄 あり
 柳巖 尚も 境内に あり 藤田 梅海寺 柳巖 居士 在後 誠
 長年の 附の け地 別業 して 富貴の 物類 古本と 叙して 今
 也

○ 古河 古河 町 所 務 所 東 表 洞仙子
 東州 通り 所 務 所 門 元 の 寺 地 南 子
 功 成 入 部 年 者 地

布 子 阿 弥 陀
 開 山 法 玄 坊

○ 僅 古 天 宮 宗 三 州 知 新 村 寺 也
 志 宗 に 降 じ 海 子 信 由 延 宗 寺
 寺 地 日 月 け 延 入 易 地 也

東 門 院 古 修 寺 也

普 賢 寺

○ 神 齋 宮

古 河 地 表 勘 前 分 由 南 畑 中 一 寺 寺 地
 嘉 十 間 南 北 十 三 百 俵 前 陰 地 也
 藤 原 鷹 代 委 命 記 海 州 山 田 社 人 稱 并 長 三 寺 持 多 之 毎 年
 正 月 中 二 日 湯 立 本 地 也 不 里 信 伴 寺 也 也

○ 開 社 八 幡 文

祭 神 石 濱 水 八 幡 文 藤 原 伊 曹 日 原 為 親 神 矣 相 傳 春 祭

攝 社 春 日 社 神 祇 社 稻 荷 社 辨 法 天 社

蛇 形 岩 湯 田 院 池 カメノ 射 カメノ 片 眼 射 カメノ 毎 天 の 池 寺 あり の け
 尻 切 田 螺 不 仁 の 里 と 比 比 也

け 古 河 に 水 多 流 善 次 為 親 齋 庭 寺 あり の 南 紀 の 鬼 賊
 上 幸 夷 寺 あり 勅 して 鬼 臣 氏 之 賜 了 を 氏 族 尾 田 に 伝 せ たり
 舊 一 作 之 齋 社 の 神 と 崇 メ 之 也 齋 庭 寺 あり の 農 民 の

肉鬼丸氏の者多し

鳥糸

神社より 豊田之鳥糸のことし 豊田のすくさく十日
上のおろし日之当社恒例三日初午 十日初辰ある宛

毎年 今初を鳥糸あり 十日初午 十日初辰あり

相殿 鳥糸 豊田

此の院地のおま中にすく七郎の墓之在る集
めし取らるる所とを中央に記されし
處を豊田と云ふこと此の地をのりて

片眼射

此の院地におま中にすく七郎の墓之在る集
めし取らるる所とを中央に記されし
處を豊田と云ふこと此の地をのりて

尻留螺

朝池に螺をとり 悉く尻切して ちり祈願のゆゑなり
西へ 佐藤のゆゑなり ちり 三洲寺平村のゆゑ

螺池と云ふは 佐藤の田にすく七郎の墓之在るに
ちり 佐藤のゆゑなり ちり 三洲寺平村のゆゑ

昔たが極ふしあくのゆゑを記す月さかぬるり此の地

ちり 三洲寺平村のゆゑ



古のゆゑにすく七郎の墓之在るに ちり 三洲寺平村のゆゑ

佐藤のゆゑなり

寶林山 徳昌寺

平

古の院地をすく七郎の墓之在るに ちり 三洲寺平村のゆゑ

古の院地をすく七郎の墓之在るに ちり 三洲寺平村のゆゑ

徳昌寺

桃敷 楊アリ

西園山

東山 慶義 和尚

元龜 二 三 末の 才 寺

大翁 義 園 大 和 尚

元龜 三 申 自 由 寺

山内院の住持古俊城守よりして 徳昌寺の住持の山内院の
地とて 堂の前の方に 住持 自苑の在るのゆゑなり
或言 古の院の 徳敷楊 徳昌の住持 自苑の在るのゆゑなり
徳敷の強りなるゆゑ 色香を留めて 徳敷の強りなるゆゑ
城潰して 徳敷 自苑の比寺と 徳敷の強りなるゆゑ

竹の北派悉焼失所とあり下過云此山平り田あり
今中流の堂の表通り町並にありし火災後裏に日込テ
再興と云々悉くお同むあり

撫玉泉居りいひ徳昌も改号と云ふ柳教坊の前庭
通り洞仙寺境ゆよりなる尚古後城郭同とあれは
洞仙寺の城墟是の地をなす城郭なりとありしは
郭の西に在りし柳樹林ベタレハ城のより二三ありハ
限るべし次は近道に在りし林の跡ハ寺北表坊へし
ける各殿信秀云関と云傳亦後山堂なりと云
後を現代新客殿造云

福曹寺より西の寺也

天龍山東陽寺

あり

用山

古殿他在徳昌南隣
西別と内なるありあり
自貢地也

法苑

大日堂

尚古の古く徳也の寺にありて延慶四年
の比御次ありあり永あま事なり

福曹寺橋下寺傳寺原在別

釈迦堂

同古在阿寺南隣
西別境也

釈迦堂

堂内あり

達磨大師

用山大休和尚塚

京傳云此山比東陽寺原在
翠巖和尚建之而名際也
大休和尚を同山といふ昔日ハ此堂
徳昌寺持向に達大師ハ八葉山
高野寺天竺在云一乃三礼ハ威利
膠をわ用造り未寺山の号
釈迦堂と云なり

○康申堂

古伝

因西側仙寺文記

堂中僧

本堂土面觀也昔 前立者面本別

○十三堂

(古伝東側
大仏堂南)

山内町太老院塔院跡
堂守僧

本堂地物昔 希十五 廿五

○大日堂

(古伝本所裏細中
社地前下除)

藝田被入 大石藏堂人

山社 里老云 彼古伽藍 廢址之 今亦老松一株而已

並礼堂

(七如栗の森と云ふ處
十間南八間一雲々)

少形をりけ大日堂のりも
未委 寂居間を 兼て
可及

(古伝古より町並古物都表
北隣古地一反古歩直貫地)

町並宗務堂京上行寺事

平

見仙山雲仙寺

開山

日安僧人

西向

三十箇亦堂

易地中興日意僧人

注古中下地町裏万古古領 最極なる處に上り延慶年中中に
御用也。此把持之代地より此 御上 御上 御上 御上
易地より路ノ中下ノ開基歴代あはけ御(引越)堂又古
平年也 岩殿 東ノ方是也のノは御一也

○古伝西側右是也
向合後同

日安或別地上古古事

僧人

長壽山如徳寺

当院開基

玄悦院日及僧人

貞享三丙子年
元禄四年辛

五世中興

智徳院日及僧人

寛保三戊午年
享和十己未年

鬼ノ母社

祈禱の門の傍に在り

昔の元寺の并に大寺村に相岳山塘村寺連大永寺末の縁ありし其地大徳に及びしを天和三年引寺りし古山の号と改め本寺町と改めたる寺の形も山中に連りわける立と也

大寺村塘村古徳に今庄寺と云彼亭下尼予に傳ふは安永の寺山の号は古後其地を宗東禪寺に譲り其別名禪寺の引寺りたりたりたると云其地を今もその如く云兩寺の同所なり不布 按、古寺に西教を傳へし其地はの寺に譲りしと云り國傳、東海寺の号も同く其地はの寺の引寺りたりたりたると云予に傳ふは其地を今も其寺の引寺りたりたりたると云と免ゆ

○ 神杜神社

古徳古寺の南側を立間 福馬寺と云
南山寺古徳古徳古徳

登山

白山権現

御務徳州 明石権現

社南白山上 石階ヲ登ル

延喜式神名帳云 加賀国石川郡白山の作時母を菊理比咩

御殿 香井

中古上願寺云今其地 白山比咩神社ト云リ

正り云々 佛立

○ 大徳 ○ 別山 ○ 天王 ○ 李庵 御社

山ノ東を向 御殿 信馬所の御店 福馬寺と云々 李庵

前基跡を委ねれど其地を 舊院云々 祈奉新 嘗舎の基上代は社に持て奉置るを 柳をまると御殿の 左に柳の茂と云 古昔の 誓の 大徳の柳を推し地を云 毎日の御多礼に用し柳 け処ありしごとく御殿 して御して御り御付地へ 持来り柳家の御殿をなると云々 其の御り并御殿内御村ウルの御殿と云山かおれと云 西村老の云ハ温吉柳の連理 御殿の末云々云々 其の御りし御テ

柳の表といふことと語る 南河の是を柳也

南河朝野人遊りの言に表を記して 蘇スラホの八五七生をしんぞ
何と云ふも知 堅サカサキ木ハ朝野神社必用本務深層用格

唐やあびたるに括せぬ柳葉乃古葉のくさき柳のきき海も

○嘗の表

柳の表といふこと

○松葉表

四ツツギ

○直礼表

柳葉迫りし

計りそむるも

○古板

町裏五柳中

○系唐屋敷

古板新下の内

○正本町

享保十一年七月の比に也 系唐屋敷の敷を柳葉 二本町
と名付け 延里の柳を記し 柳葉古板の里といふありし

○妙修塚

享保の末に海邊一柳 能名といふあり
島の因にけ号をす七塚の内なる

○名号

海州善井系の 銘古板の考として 名物のことあり
け地を字を六及系 藤といふ け藤の葉 藤葉の如し

と云ふ所の新町 為正町といふことあり

獲きす子多の卒のどし
是も一箱 繁華のりありし

○山竹塚

昔に刑罰に追ひし 記の中と云 町家と柳の境に老木塚の
ありて 昔に板一棟を掘出さ 或時地之切 ことあり 爰に柳葉を記して

白ひ香花を焼く 灯を踏んで 踏ましたるに 今候ありし

○下柳堂

そ田畑のまに 負堂 石倉堂 祝吉堂 くらぼの堂

○七塚

○為形塚 ○山竹塚 ○藤塚 ○おぼ塚 ○義水塚

○首掛塚 ○系唐塚

古墳 惣ら け地は七塚ありと云傳つ

系唐塚の鳥居所にお出りし 一は元奥の柳の 延野鳥居山
の号を記し 今町名にも 古墳塚形をく 何れと云ふ
さたり 柳葉と名知を記し 邦中の中央の藩にたれ 柳葉の
有る人の 柳葉といふ 柳葉 滄海 葉といふ 柳葉の
習多し 今 柳葉といふ 柳葉

○豊後氏 山田氏

豊後氏 山田氏 柳葉に 柳葉といふ 柳葉

○ 後寺十三坊 性古寺 法明寺 長壽寺 淨泉寺

長安寺 七ヶ寺 洞仙寺 五泉寺 信昌寺 信昌寺

真福寺 後り委不記

○ 古原邑 産名生十人 訓習

名古原山と 名古原海寺 桑島山 古方原

村原庄馬と 陸田庄馬 陸水庄馬 古方庄馬

五曲園防馬 五曲庄馬 内庄庄馬

○ 日武村 産名 一 産名 或取村 磯田 丹波 古原

丹波古原庄に御寺ありと云お撰の者あり陸田城ありと云お撰
陸田庄 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名
人倭尼者とその代とも丹波の御寺ありと云る

○ 盗人の衆 古原庄あり 丹波中 古原庄 山形 産名 三康 古原

○ 同部 歩野村 一 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名 産名

○ 古原町 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄

開山 古原庄 量院 日悟 聖人 天和三年 八月 古原庄

古原庄 田植 風の麓にありて 歴世久し 延宝三年 卯年 卯
湯田庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄
頭領 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄
処 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄

○ 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄
寺院 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄
古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄

五十一 中興 易地 開山 日要 寺人 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄 古原庄

古一白多 此代修葺の愛に在り而能多末山塔迄のてく
て用基 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り
好自美に再身中真用山 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り

○佐尾街 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り
北側寺内八五八畝十二
分年有地

福徳寺 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り

昌桂山 恭雲寺

境内 觀音堂

用山 浩海 和尙 福徳寺

○天徳社

大徳寺 再興 昌桂院 一株全真大徳

志水主膳其ニ忠時ノ舎也

尚古 元來海 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り
文九酉 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り
大子牧之志水 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り
付 右に在り 右に在り 右に在り 右に在り

昌桂山 恭雲寺 塔銘

昌桂院殿 一株全真大徳 尾州大守正二 右に在り 右に在り
權臣成願集 正正虎之 園秀也 夙志水氏 長能 終肉德已者
寡婦 内秘鐵骨丈夫 志氣外 現金心 婦女貞操 家内
風度 冠絶 一國 肯傾心 於無上 妙道 指於 教外 別傳 妄
世欲 離名 聞不取 為世 網所 纏縛 其 素雖 成長 豪貴
家手 拾薪 汲水 密追 慕世 尊六年 辛苦 其 雖 務不 言而
可知 焉 先是 為 農子 恭雲 院殿 買得 布金 造管 梵刹
宣殿 門廡 庖廩 井室 成就 百尔 器 物 具 備 矣 特 以 無 洪
鐘 為 闕 典 矣 而 孝子 甲州 大守 忠時 命 治 工 其 新 鑄 洪 鐘 懸

之山樓以教晨香夕誦時告夜起曉行節致幽冥苦
驚幽情夢其孝德也其功重也遍幽遍入通天境偉矣
哉 銘曰

境隣尾陽城畔 梵宮新開洪基
遠近孰不歡怡 士民尽潤真化
幽魂非息極苦 神明亦受祝饗
屋霜敷曉雲披 萬慮深凝夢
却石縱有清日 洪音味無盡時
兒孫榮國家終 嗟予鑄鑿妙感

元禄十三庚辰櫻五隻穀旦

首掛塚 南古境内 尾改次少義次塚境内よりと云
以号惣塚の事也けつ元奥寺の法よりと云 古株の大松
塚也と云

鳥山北側蒸雲の
隣地内

志為山洛東を院寺 予
國豊山元奥寺

古き業所也来 元奥寺子高作 後寺
元奥寺業所と云 余修業所 ○白山社

中奥用山 享保十九甲寅年十一月十五日
建中寺十世 薰蓮社香誉上人風所即随大和尚

尾張名所記云 元奥寺尾陽山と云古寺地と云定に知る者少
多田満仲が相續好代の行跡云と云亦或院に大織冠社建
立と云と云寺を築路り寺迎の石として其形も云
荒果く古松老栢枯残りたる杉楠葉枯を阿そひて無き相
奉りしと云也中奥の庭を信じて也尊業所也を安んじ
奉り 亦古の山をかしと云元奥寺のありし
法吉の鳥山新老寺に予又古長山と云

香登く人為陽也山号と改々再興くのて けの鳥片
似たりし地形有る云々の卒に似たりとて田又け出さるの
ひくともそ

或る昔時南都の預與を撰一者たる古歌とやを盛成
し時けのゆりに尾取治命は義成と云ふ古歌将軍多田ノ
満仲の苗裔たりしが故をうて酒に埋本と成て佳めり
尚ちと帰崇して一度武運を用むると祈ふおゆり院の
御宇に當りて南紀に怨鬼あて人民とそこをうす河り者次
そ名雲上に南(加)くても詔を編り彼を鬼と退治してそ
以と持けし 敬感糾あつて震賞として姓号を下り多府
鬼取氏愛作ぬ是則けちの大具形也功成り名垂く遊去
のゆ美を八幡ふ合を奉り同りの表は之に林やむハ無双の
大加藍や本相又粹両名其藍の島或に事記やも皇嘉
二百年前のももや鳴呼何処の一炬焦土と成り兵聖徳也
子王依の業際記着おの佛首汁り残さる道者境内か場お
せゆ美花の尾列おちと昔の印とし若成と流して二念れ與ち

と咄びあををさるきあのこ

亦一説 八幡をり源義盛の再興を之の七の業際の間半
古伝の業師のみしと造り籠りるや先昔のゆもや
あつりいゆもやゆ首をりゆさるゆもや

敏達天皇御宇尾張國所育郡農氏復月瀧田時雷多
畏又避^雨樹下俄而雷墜其前狀如小兒農夫^耕耕
欲擊^下雷語曰汝莫害我亦必殺汝曰何以報^下雷曰
令生異兒乃請農夫造一桶舟盛水泛竹葉遂登天數
月農夫之妻有身生男靈蛇纏繞兒頭元二匝首
尾相至併^垂於後父甚異之童子年十有余甚有
膂力能舉^下方八尺石投之數丈其作力足跡入地三
寸童子師事元真寺僧時蓮堂有鬼每夜殺撞墮
者童子一夜昇堂鬼來形見童子使捉鬼頭鬼与童
子爭力相接鬼欲引出之於内天曉鬼欲逃童子

急握鬼髮剥落皮肉兼存鬼遂逃去明日見地有血
尋跡求之至寺邊柏木而昔日丁埋惡奴也則知惡奴為
鬼仍是鬼害遂絕鬼髮見在元興寺賢藏以相傳之
童子復為僧号道場法師下畧
敏達帝御宇元興寺未造然則道場法師以此御宇
生而其後捕鬼吏在地後者也

此道場法師事今昔物語 偏年録等云委ッ出ル

或云 昔日鎮西八尋女坊ハ此処に住みしを知らざる因邑ノ
有りし女に事し男をさすくそ子成事して他家を移り
元興寺に住持次大力の時之御侍所也元興寺此陸
樓に鬼のおたりしに彼僧力を合はれ鬼の光りて
南の海中かやまきり秘に漁人別ちを燒亡はけ陸地を去り
物方平立村にあり住せし他々の牛立村移居して是又
尾張山と云 物里夜の花道場法師の事を語り云

本物文粹に載たる都良香の著せる名師法師の傳を
見ての考知る事

首掛案と云てハ今案

義次塚

童右尾以治高と云る所の男と云は傳号と云
源徳院と云 師匠院と云 牌子元興寺に
寺の赤雲寺境内天和社側に自修し古書一棟と云是別
義次塚の塚也と云

為朝塚と云る元興寺の山裏接介細中にかきさる芝を
たる丘墳あり是涉島八尋女坊の塚也實曆十三年
春の冬ふけを夜貴御宿集勅教事信知も知る事
くと繁昌志たり 古案集冬興の後ハお違をり

為朝塚 七ハ田圃に竹垣を築ひ地味をまきり日水海も
右岸の ちやけたものありけり

ふき瓦 け地に滋香の紫字の墟と云々
服散り埋したる尾のありしを世人尚ほのふき瓦
字拾ひ記ふどに彫用ゆ祝ハふき 經に記すを以て秘漢

たに中一の佳物と云ふ南無の横一たる云云説も有り
まも凡そ有金身にはあるれば予け地蔵の肉を
布目の有る石尾を宝曆十三年に捨て捨る至る古物
有り性太の在りありと云ふべしと云ふ一は
卵子あり是も南無の中一尾と云ふに拍をわらふ形
ありありと云ふ

常陸社 新島寺 陸奥の社と云ふ七巻が其に參り
宮地と云ふり是れあり 結守正教白山権現と云ふ地

古原村 寺田キ隣地に有教誨より 磯田信秀の比し
鬼降宗たると云 者ありて爰に辰恒と云ふ葉田来と云
々に辰恒はと云ふ教地と云ふ城のしと云半と云ふと云
け鬼頭ハ為朝の辰恒と云流と云ふ

或年より 善入原義次ハ頼朝公時代の人也 東陸に出ると云
尾張西屯知郡尾張道に住り新島寺と云ハ新島村之
八市尾朝の堀を築たる事ハ有知あり其の地は

殺るり尾州に辰恒の事一切前同 舊書より有て無
お朝 堀と云ふ事あり 堀と云ふ人義次の事あり
あるに新島と云ふ事あり 堀と云ふ事あり 堀と云ふ事あり
出たり 本意の葉原如來ハ為朝の祈新島と云ふ事あり
満仲 以て 義家の祈新島と云ふ事あり 古代の事あり
計り難し 鬼降の事あり 同徳ハ為朝其奴を
百仕しと云ふ鬼降の恨を合せて取交へたる事あり
辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり
春日里の同徳と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり
よりてと云ふ 雜説を取交へる事あり 辰恒と云ふ事あり
因南無の産と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり
の鬼降氏 文京と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり
返く 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり
昔後と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり 辰恒と云ふ事あり

義次ノ系如也

美濃八郎

品為朝

母ハ江口氏也

日本第一健子大弓達人
猛将也

美實

上野門院判官代
尾張守知多院

上野門院判官代
美實

美信

上野門院判官

實信

美信

美信

美信

尾張氏社領
尾州尾院判官

美濃出生
為頼

号信官者

慶來

美濃

為通

朝宗

出家教興寺
用基と云
一世住侶頼力

○市部堤

○古橋壘

○尾院橋

市部ハ尾院の居号と云古橋の御山也

尾院所ハ中興と云尾院橋と云實又云尾院

佐原御及用依りて今ノ新橋と云

五十七

○古橋八郎

冬央選古橋集ニ出ル冬央ハ古橋の
佐原享保年所ノ吟詠也

新宮 晴嵐

山原 暮雪

新橋 野帆

芳原 夕照

柳林 秋月

市原 堤花

園 夜雨

霧 雪 晚鐘

晴嵐 嵐木の芽 落村 植少那

山原 暮雪 元生の影をよみし時

新橋 野帆 二味線もあがり 橋より

唐 寺や鳴る心 蝶の夕附日

制 札の背中にまごし 表の目

厚 小見 市原 堤花のうねりうな

神 送り 岩 ぬたやみの雨 夜雨

風 やた ぬらともうらり 暮の鐘

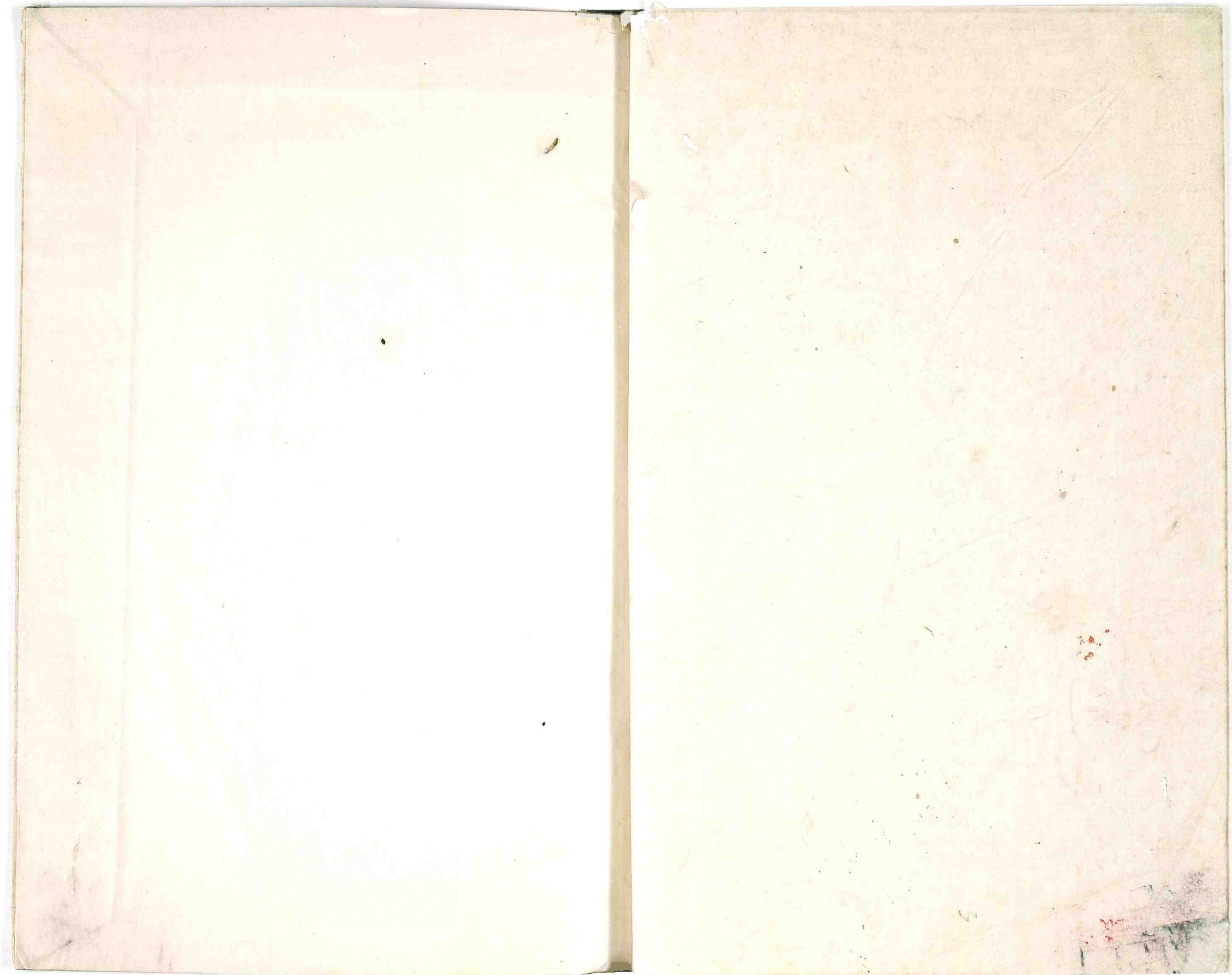
新宮の船着 四徳三年 延文 五 聖徳の 吹かれば 暮雪の

けしき 右 地 盤 場 あり 安 重 以 けしき あり

浪 是 南 方 小 藝 田 地 内 の 地 の 是 也 別 記

此春未下内 疾アリ依テ受ニシカシ
舊田の役人ニテ古田村之 御言迄迄の後
信玄の命ニテ改名村郡在馬ノ由

御府内五冊安政四年十月三日以作者名中寫了
依下誤字多シ就中鐘銘別々甚ク難澁本寫至之三回



愛 知 県



1103269406